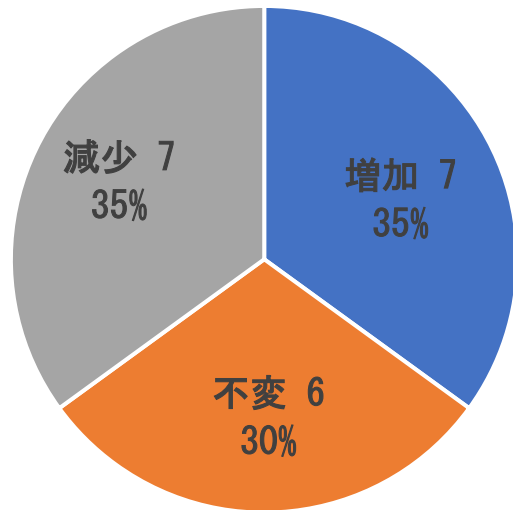


令和7年度景況調査

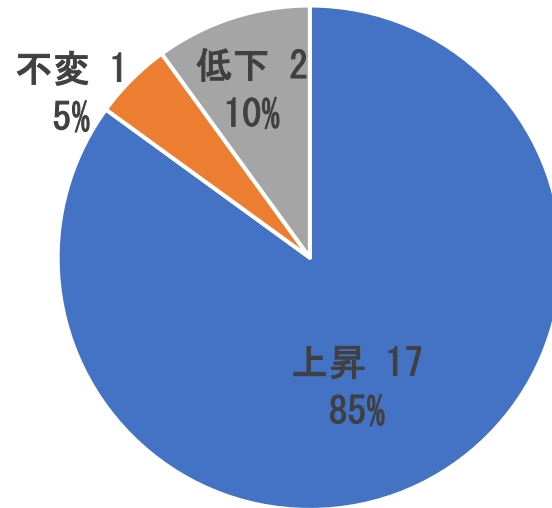
第三四半期(10月～12月)

①調査結果（その1）

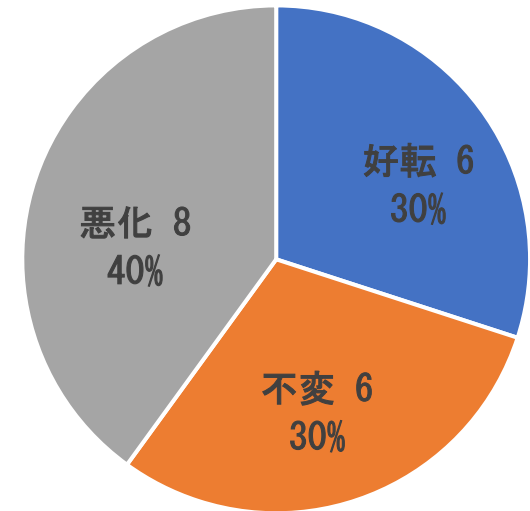
売上高の状況（前年同期比）



仕入高の状況（前年同期比）

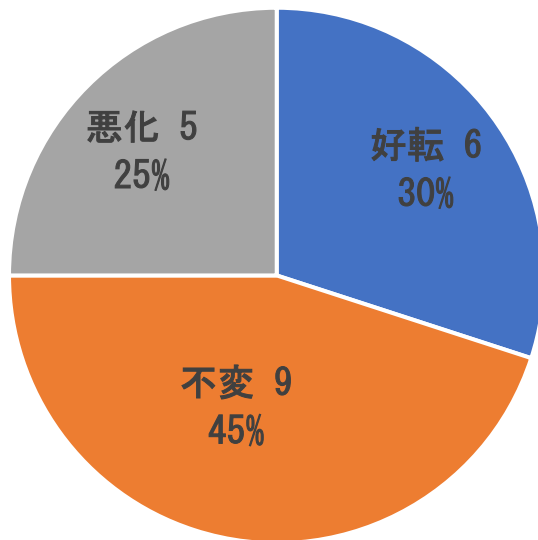


経常利益の状況（前年同期比）

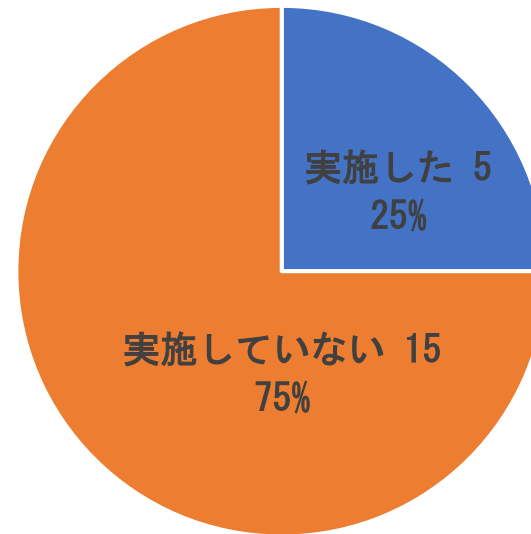


①調査結果（その2）

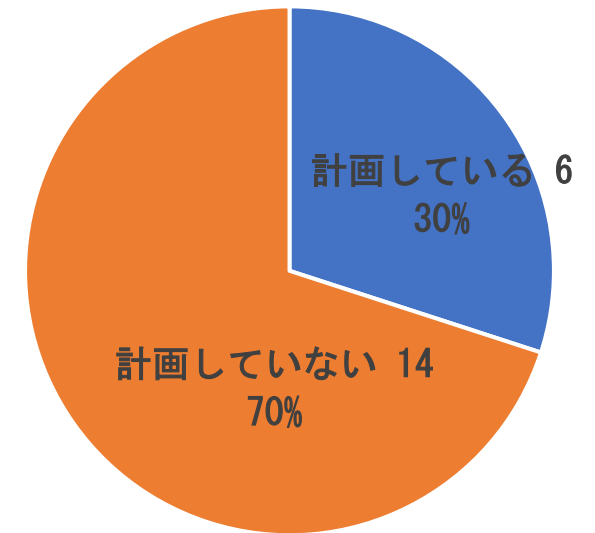
自社の業況（前年同期比）



設備投資の実施（今期）



設備投資の実施（来期）



②分析結果

売上高は、調査対象事業所20社のうち35%（7社）が前年同時期と比較して増加、同数の35%（7社）が減少しており、二極化している。

仕入高は、85%（17社）が『上昇した』と回答しており、業種問わず仕入価格の上昇が続いている。この影響もあり、経常利益が『好転した』事業所は全体の30%に留まった。

業況は、『好転した』事業所は全体の30%（6社）で、半数が45%（9社）が『不変』と回答した。

設備投資については、25%（5件）が今期で実施したと回答しており、来期に実施予定は30%（6社）との結果となった。物価高騰などにより依然として業況が不安定であるため、新たな設備投資を控える傾向が見てとれる。